

第4回常若講座

古事記を読む 其の3

国生み③

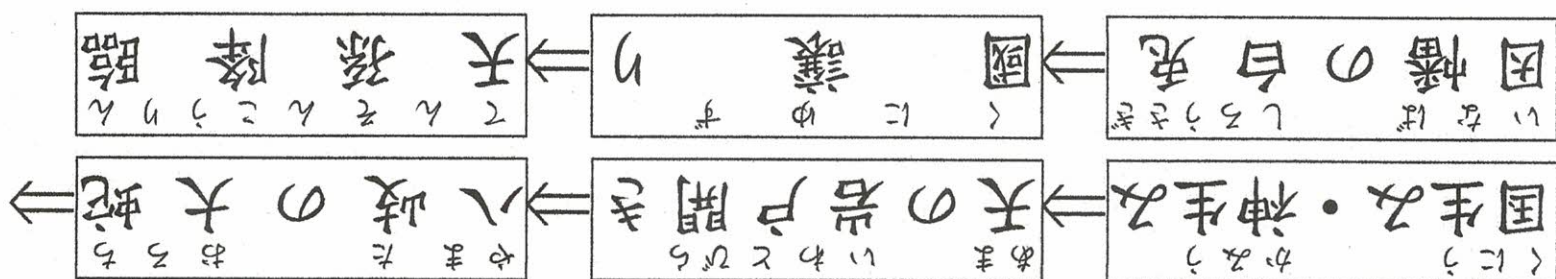
令和7年7月18日(金)

講座①

古事記ってなに？(今までのおさらい)

- ・『古事記』は、現存する日本最古の歴史書
- ・奈良時代の西暦712年に成立
- ・同時期(西暦720年)に成立した『日本書紀』と並べて『記紀』と呼ばれる
- ・稗田阿礼(ひえだのあれ)の語りを太安万侶(おおのやすまろ)が整えた
- ・構成 上つ巻(天地創生～神代物語)
- ・中つ巻(神武天皇～応神天皇)
- ・下つ巻(仁徳天皇～推古天皇)

《古事記の名場面》(上つ巻)



《神々の居る世界観》

高天の原
たかまはらの

葦原の中つ国
あしはらのなかつくに

黄泉の国 = 根の堅洲國
よみのくに = ねのかたすくに

死者の住む国 出産で命を落とした伊邪那美神が住み、根の堅洲國と黄泉の国は同じとされるが
根の堅洲國には須佐男神が住んでいるとされる

講座② 古事記を読む 其の3【国生み③】(別紙)

第4回常若講座 資料

今日の短歌

昭和天皇 大東亜戦争終結時 御製

爆撃に斃れゆく民の上を想ひ 戦とめけり身はいかならむとも
身はいかになるとも 戦とどめけり ただ斃れゆく民を想ひて
国柄をただ守らんと 茨道進み行くとも戦とめけり

講座② 古事記を読む 其の3 【国生み③】

《前回までのあらすじ》

◎天地の初発の段(天地開闢)

天地の初めの時に高天の原に、①天の御中主神②高御産巢日神③神産巢日神の3柱の神様が現れましたが、すぐにお隠れになつてしまいました。次に葦のように成る、①宇摩志阿斯訶備比古遲神②天之常立神の2柱の神様も、すぐにお隠れになりました。

◎神世七代の段

次に

国之常立神(一代) 豊雲野神(二代) 宇比地邇神・妹須比智邇神(三代) 角杵神・妹活杵神(四代)
意富斗能地神・妹大斗乃弁神(五代) 於母陀流神・妹阿夜訶志古泥神(六代) 伊邪那岐神・妹伊邪那美神(七代)

◎淤能碁呂島の段

それから天津神の命に従つて、伊邪那岐神・伊邪那美神は国造りをしようと思い、天沼矛を天浮橋から指し下して搔き回して、その矛先から滴る塩が積もつて淤能碁呂島がお生まれになった。

◎美斗能麻具波比の段

お二人は、淤能碁呂島で天の御柱を立てて、八尋殿をお建てになった。伊邪那岐神は、『自分の成り余つたところをお前(伊邪那美神)の成り合わないところに刺し塞いでみよう』と仰つた。そして天の御柱を左右それぞれに回り、廻り合つたときに伊邪那美神が先に、『あらい男だこと…』と言つたために骨無しの子が生まれてしまったので、この子は葦船に入れて流してしまわれた。そして天津神に事の次第を報告して、これからは男の方から先に言葉を発するようにとの指示を戴いた。

【国生み③・大八島國(日本国全体)成出の段】

故 即ち返り降りまして、更に其の天の御柱を先の如く往き廻りたまひき。
此处に伊邪那岐神、先ず「あなにやしえをとめを」と言りたまひ、後に伊邪那美神「あなにやしえをとめを」と言りたまひき。斯く言りたまひ終えて、御合ひまして、御子 淡道之穗之狭別島を生みたまひき。次に伊予之三名島を生みたまひき。この島は身一つにして面四つあり。面ごとに名あり。故 伊予

くに え ひ め ちぬきのくに いいより ひ こ あわのくに おおげ つ ひ め とさのくに たけよりわけ
国を愛比売と言ひ、讃岐国を飯依比古と言ひ、粟之国を大宜都比売と言ひ、土佐国を建依別と言ふ。
お き の みつこのしま あめのおしころわけ つくしのしま
次に隠岐之三子島を生みたまふ。またの名は天之忍許呂別。次に筑紫之島を生みたまふ。この島も
おも おも かれ つくしのくに しらひわけ とよのくに とよひわけ ひのくに
身一つにして面四つあり。面ごとに名あり。故 筑紫国を白日別と言ひ、豊国を豊日別と言ひ、肥国を
たけひむかひとよくしひねわけ くまそのくに たけひわけ いきのしま あめひ
建日向日豊久士比泥別と言ひ、熊曾国を建日別と言ふ。次に伊岐之島を生みたまふ。またの名は天比
とつばしら つしま あめのさでよりひめ さとのしま
登都柱と言ふ。次に津島を生みたまふ。またの名は天之狭手依比売と言ふ。次に佐渡島を生みたまふ。
おおやまととよあきづ しま あまのみ そらとよあきづ ねわけ かれ
次に大倭豊秋津島を生みたまふ。またの名は天御虚空豊秋津根別と言ふ。故 この八島ぞ先ず生みま
よ おおやしまくに
せる国なるに因りて大八島国と言ふ。
さ のち かえ ま きびのこしま たけひがたわけ あつぎしま
扱て後、還り坐しし時に吉備児島を生みたまふ。またの名は建日方別と言ふ。次に小豆島を生みた
まふ。またの名は大野手比売と言ふ。次に大島を生みたまふ。またの名は大多麻流別と言ふ。次に女
おおぬでひめ おおしま おおたまるわけ ひめ
島を生みたまふ。またの名は天一根と言ふ。次に知訶島を生みたまふ。またの名は天之忍男と言ふ。
しま あめひつね ちかのしま あめのおしお
次に両児島を生みたまふ。またの名は天両屋と言ふ。
ふたこのしま あめふたや

◆現代語訳文

そこでお二方は返り降りて、再びその天の御柱を、前と同じように行き廻りました。そうして伊邪那岐神が先に、『あゝ、なんて素晴らしい乙女よ』と言ひ、後に、伊邪那美神が、『あゝ、なんて素敵な殿がいたよ』と応えた。
斯くの如くに言い終えて、結び合われてお生みになった子が①「淡路島」です。次に②伊予二名島(現在の四国)を生まれました。この島は、体は一つでありながら面が四つもある。面ごとに名前があつて、伊予国を「愛媛」と言ひ、讃岐国を「飯依彦」と言ひ、粟国を「大宜都姫」と言ひ、土佐国は「建依別」と言ふ。次に③隠岐島をお生みになった。またの名は「天の忍許呂別」。次に④筑紫島(九州)をお生みになった。この島も体は一つであつて面が四つもある。筑紫国は「白日別」(福岡県)と言ひ、豊の国は「豊日別」(大分県)と言ひ、肥国は「建日向日豊久士比泥別」(熊本県・佐賀県・長崎県)と言ひ、熊曾国を「建日別」(鹿児島県・宮崎県・熊本県)と言ふ。次に⑤壱岐島をお生みになった。またの名は「天比登都柱」と言ふ。次に⑥対馬をお生みになった。またの名は「天之狭手依比売」と言ふ。次に⑦佐渡島をお生みになった。次に⑧大倭豊秋津島(現在の本州)をお生みになった。またの名は「天御虚空豊秋津根別」と言ふ。この八つの島を始めにお生みになったことにより、こゝを大八島国(おおやしまくに)と言ふ。
そうして後にお二方の神がお歸りになる時に、吉備児島(岡山県)をお生みになった。またの名は「建日方別」と言ふ。次に小豆島をお生みになった。またの名は「大野手比売」と言ふ。次に大島(現在の周防大島)をお生みになった。またの名は「大多麻流別」と言ふ。次に姫島をお生みになった。またの名は「天一根」と言ふ。次に知訶島(五島列島)をお生みになった。またの名は「天之忍男」と言ふ。次に両児島(男女群島)をお生みになった。またの名は天両屋と言ふ。

〈大八島国の数え方〉

①淡路島 ②四国 ③隠岐 ④九州 ⑤壱岐 ⑥対馬 ⑦佐渡 ⑧本州

〈白日別(しらひわけ)の和歌〉 青木繁(海の幸・大穴牟知命・日本武尊・黄泉比良坂ほか)

つくし くに しらひわけ
我が国は 筑紫の国や 白日別

は は は ぜ
母います国 櫛多き国

今回で『国生み』を終了し次回、第5回常若講座からは

十月(予定)に…『神生み』を紐解いていきます